



環境考古学（動物考古学）・先史人類学

過去・現在・未来の人類と環境の総合的な理解を目指す

本郷 一美 准教授
Hitomi Hongo

研究キーワード

動物考古学、家畜化、西アジア、東アジア、新石器時代



経歴

'96 ハーバード大学人類学部
博士課程修了 (PhD)
'95 - '97 国際日本文化研究セン
ター 講師 (COE 研究員)
'97 - '06 京都大学霊長類研究所 助手
'06 - 現在 総合研究大学院大学
先導科学研究科 准教授

所属学会

International Council for
Archaeozoology (ICAZ),
日本人類学会、日本動物考古学会、
日本西アジア考古学会、日本第四
紀学会、日本文化財科学会、日本
考古学協会、生き物文化誌学会、
在来家畜研究会、生態人類学会

志望者へメッセージ

先導科学研究科は小規模な研究科
ですが、多岐にわたる分野の研究
者が所属しており、色々な分野横
断的な研究をすることが可能です。
ぜひ、既存の学際分野の枠を超え
た研究テーマを見つけてください。

E-mail

hongou_hitomi@soken.ac.jp

URL

http://www.esb.soken.ac.jp/
research/hitomi_hongo.html

研究詳細 QR



人類の歴史におけるヒトと環境との相互関係の変遷を通して、社会・経済・文化の変容を考察する研究を行っております。約15000年前の人類の定住化と、約12500年前ドメスティケーション（栽培化、家畜化）は人類史における最も重要な変化であり、文明社会の発達を可能にしました。一方、人類活動が生態系に与える負荷は増大し、現在に至る地球環境問題の原因となりました。過去・現在・未来の人類と環境の総合的な理解を目指し、栽培化と家畜化の起源地の一つであるトルコ南東部ほか西アジア各地で調査を行い、考古学、分子遺伝学、環境科学、行動生態学、文化人類学などの分野の研究者と共同研究をしています。ドメスティケーションは、ヒトと動植物の共進化的な変化であり、生物学的な側面とヒトの文化的な側面の両面からその過程の詳細を明らかにすることをめざしています。



ヒツジ頭蓋



ハッサンケイフ遠景



ヒツジ搾乳

代表的な論文、著書等

- 1 本郷一美 (2019)「ヒツジ・ヤギの家畜化」畜産の研究73 (10) :853-862.
- 2 本郷一美 (2018)「家畜化は肉食に貢献したか - 狩猟から牧畜への肉食行為の変化 -」野林厚志編『肉食行為の研究』, pp.178-200. 平凡社.
- 3 本郷一美 (2018)「西アジア動物考古学による家畜化過程に関する研究の進展」季刊考古学144号『動物考古学の今』, pp. 69-73. 雄山閣.
- 4 本郷一美・丹野研一 (2017)「西アジアにおける動物、植物のドメスティケーション(家畜化、栽培化)」季刊考古学 141 号『西アジア考古学・最新研究の動向』pp. 37-40.